



赤い色の縁起物郷土玩具展

【特集展示】山波のとんど模型

会期：令和2年12月26日(土)～令和3年1月31日(日)

休館日：火曜日 年末年始(12月28日～1月3日)

入館料／一般 210円 (20名以上の団体 170円) 共通 520円 (おのみち映画資料館も観覧できます)

※中学生以下無料 ※障がい者とその介護者各1名は無料です。入館の際に障がい者手帳等をご提示ください。



おのみち歴史博物館

〒722-0045 広島県尾道市久保一丁目14-1 Tel. (0848) 37-6555



【特集展示】山波のとんど模型

とんど

小正月(1月15日)に行われる「左義長」という火祭りの行事があります。日本各地で見られる伝統行事ですが、備後地方では江戸時代に福山藩領で隆盛したことから、今でも「とんど」という名称で行われています。

家々では新年に門松や注連縄を飾り、その年の福を司る歳徳神を出迎えます。歳徳神は「としとくじん」もしくは「とんどさん」とも読まれています。「とんど」の火祭りは、出迎えた門松や注連縄を燃やすことで、歳徳神を天上に見送る意味があるといわれます。燃やした灰を持ち帰り、家の周囲にまくと病除けとなり、書初めを燃やすと字が上達すると伝えられています。また、餅を焼いたりしますが、この地方では蜜柑を焼くのが定番となっています。これらを食べることで、歳徳神の御利益を得ようなのでしょう。

ちなみに、鏡餅は歳徳神への供物として飾られます。鏡は古くは丸い形をして、現世と来世の境界であると考えられていました。鏡餅が丸いのは、この鏡を似せたものです。正月が終わり、鏡餅を下げて家族で食すために小分けにすることを「鏡開き」と言います。小分けにするとき、刃物で切るのは縁起が悪いことから、手や小錘で割ります。縁起上のことから、割ると言わずに「開く」と言いました。

尾道のとんど

尾道市を代表する「とんど」に、市の無形民俗文化財に指定されている「山波のとんど行事」があります。その他、多くの地区で「とんど」が行われています。これは江戸時代の福山藩(現在の福山市)時代に隆盛したことが影響されていると考えられます。ちなみに、現在の山波町は、江戸時代には福山藩領でした。江戸時代は盛大に行われていたようですが、明治期以降になると次第に衰退していきました。それは、近代化による電線の敷設など、防火上の問題があること。また、近年では地域の高齢化や過疎化による後継者不足や、農地の宅地転用による行事場所の問題などの影響があげられます。そのなかで、山波町の「とんど」は規模も大きく、古き時代の「とんど」が伝承されていると言えます。

■エントランスホール「尾道の出土文化財」

[尾道遺跡出土文化財]		出土地点：土堂一丁目もみじ銀行尾道支店	
番号	資料名	員数	備考
1	白磁印花双鳥文碗	1点	
2	中国製茶入	1点	
3	瀬戸焼茶入	1点	

出土地点：土堂一丁目・久保一丁目・久保二丁目			
番号	資料名	員数	備考
4	中国製青磁碗	3点	
5	中国製白磁皿	4点	
6	土師質土器碗	1点	
7	土師質土器皿	2点	
8	備前焼播鉢	1点	
9	瓦質土器播鉢	1点	
10	天目茶碗	1点	
11	漆皿	2点	
12	唐津焼灰釉皿	3点	
13	唐津焼碗	2点	
14	伊万里焼染付小杯	1点	
15	伊万里焼染付皿	2点	
16	伊万里焼染付碗	1点	
17	伊万里焼染付大鉢	1点	
18	肥前系青緑釉皿	1点	
19	備前焼小壺	2点	
20	瀬戸焼緑釉瓶掛	1点	

出土地点：尾道市御調町貝ヶ原			
番号	資料名	員数	備考
21	広島県重要文化財「貝ヶ原遺跡出土の特殊器台形土器」	1点	

22	尾道市重要文化財「紙本著色尾道絵屏風」美術陶板 安永3年(1774) 70.4×205.0cm 浄土寺 蔵	六曲一隻	尾道ロータリークラブ、尾道東ロータリークラブ 共同寄贈(2005)
----	--	------	-----------------------------------



赤い色の郷土玩具

疱瘡(天然痘)は、神格化された悪神、疱瘡神の仕業だと信じられていました。会津の赤べこは疱瘡によってできる瘡蓋(かさぶた・かさ=くさ)を牛が食べて快方に向かうように願いが込められてつくられました。

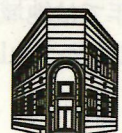
赤べこや飛騨のさるぼぼのように赤を基調とした郷土玩具は少なくはありません。これは疱瘡神が赤色(犬や猿も)を嫌う伝承があるためです。余談ですが尾道市には瘡神社という社がありますが、おそらくはこの疱瘡神に関連したものと考えられます。疱瘡は天然痘ウイルスを病原体とし、人に対して非常に強い感染力を有した感染症です。平安時代のころから人々を苦しめ、戦国大名の伊達政宗が片目を失明したのも天然痘でした。玩具の多くは子供向けに作られています。赤い色の玩具の多くは、子供たちが元気に成長する家族の切実な願いが込められているのです。

だるま

鎌倉時代に中国から伝わった禅宗の僧侶に達磨大師という僧侶がいます。達磨大師には7年間壁に向かって座禅を行い、その際に手足が腐ってしまうという伝説があります。置物のだるまは、この伝説を基に作られるようになりました。七転び八起きで知られる形態は、江戸時代にはじまり全国各地で個性的なだるまが作られるようになりました。

選挙報道で見かけるだるまには、当選祈願が込められているように、だるまは大願成就の縁起物として広く知られています。病や災いを赤色で防ぐことができるとも考えられています。

だるまは男性が主流ですが、なかには女性のだるまがあります。姫だるまといい、歴史は新しく近代になってから神功皇后をモデルにしたものです。



おのみち歴史博物館

〒722-0045 広島県尾道市久保一丁目14-1 Tel./ (0848) 37-6555

赤い色の郷土玩具

常石だるま	広島県常石
名古屋鉢巻だるま	愛知県
博多男だるま	福岡県
博多女だるま	福岡県
竹田姫だるま	大分県
吉備津土だるま	岡山県
玉島だるま	岡山県
久ノ浜だるま	福島県
山だるま	富山県
女だるま	高知県
女だるま	熊本県
三角だるま	新潟県
三角だるま	福島県
三春姫だるま	福島県
三春だるま	福島県
白河だるま	福島県
高崎だるま	群馬県
火伏だるま	宮城県
豆夫婦だるま	岡山県
鉢巻だるま	香川県
達磨笛	青森県
尾道べっちゃん祭り (面) ショーキー	広島県

鯛戎	香川県
流し雛	鳥取県
金魚車	熊本県
金魚台輪	新潟県
鬼牛	愛媛県
赤牛	宮城県
祇園長刀鉾	京都府
獅子頭	香川県
獅子頭	兵庫県
獅子頭	大阪府
獅子頭	三重県
奉公さん	香川県
張子猿	静岡県
さるぼぼ	岐阜県
熊金	富山県
戎	富山県
赤天神	愛知県
天神	広島県
赤べこ	福島県
ぴんぴん鯛	滋賀県
鯛船	福岡県
雉車	宮城県
赤天神	栃木県



干支

「えと」もしくは「かんし」と読み、十干(10種類)と十二支(12種類)を組み合わせた60を一つの周期とする数詞です。古代中国を起源とし暦、時間、方位を表すものとして使われました。日本には5~6世紀頃に伝えられ、明治維新後に西洋暦が採用されるまで使われていました。暦の周期については60日、60ヶ月、60年としています。生まれた年の干支を迎えることを「還暦」といいますよね。「還暦」は現代でも、再び赤ちゃんに戻って生まれ直す意味を込めて、赤いちゃんちゃんこなどを着て祝います。

令和3年は丑年ですが、正確には「辛丑(かのとうし、しんちゅう)」となります。牛ではなく丑の字を使います。

牛

学問の神さまとして有名な菅原道真がいます。菅原道真は天神様と呼ばれて神社で祭られています。牛は天神様の使いと言われ、天神様ゆかりの神社で牛の彫刻をよく見かけます。尾道市内には菅原道真ゆかりの御袖天満宮があり、拝殿の横に大きな牛の石造物があります。